



**第19回 日本大学口腔科学会学術大会**



**期日** 令和元年9月1日(日)  
**会場** 日本大学松戸歯学部

**【B01】イヌ口腔微生物叢に対する Oralpeace の有用性について**

○豊泉元心<sup>1</sup>, 宮井紗弥香<sup>1</sup>, 伊藤あき<sup>2</sup>, 林 道子<sup>2</sup>, 田村佳耶<sup>2</sup>, 林 一彦<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>ヤマザキ動物看護大学, <sup>2</sup>花小金井動物病院)

**【目的】**イヌにおいては成犬の多くが歯周病に罹患する傾向にあり, 嫌気性細菌がその主たる原因であると考えられている。また, Oralpeace ヒト用口腔ケア用品(以下 OP)がイヌの口腔内嫌気性細菌およびマラセチア, カンジダ属菌に有用であるか否かについても検討を加えたので報告する。

**【材料および方法】**花小金井動物病院に来院した歯周病罹患犬 10 頭を対象とした。滅菌綿棒を用いて, 上顎左側第四前臼歯の頬側面のプラークを, スワビング法により採取し, すみやかに輸送用培地(RTF 培地)に浸漬した。アネロウサギ血液寒天培地を用い, Control 群と, OP 群とを嫌気条件下で 37°C, 72 時間培養をした。一方, マラセチアおよびカンジダ属菌に対する効果についてはクロモアガー マラセチア/カンジダ生培地を用いて好気条件下で同様に培養し検討した。

**【結果】**アネロウサギ血液寒天培地(嫌気培養)においては,

Control 群と OP 群の総菌数平均値間に有意差( $p < 0.05$ )が認められ( $n = 10$ ), 総菌数平均値は Control 群で 182280 CFU/ml, OP 群で 30985 CFU/ml となった。そのうち 2 頭の Control 群において黒色色素産生菌が認められたが, OP 群では黒色色素産生菌の発育は認められなかった。クロモアガー マラセチア/カンジダ生培地においては, 10 例中 2 例にマラセチア属菌の発育が認められたが, OP 群では, 顕著な減少が認められた。また, カンジダ属菌については調査対象の 10 例すべてで発育が認められなかった。

**【考察および結論】**OP は, イヌの口腔内細菌, 特に歯周病の主な原因と考えられている嫌気性細菌に対し, 有用であることが明らかとなった。また, イヌの口腔内にマラセチア属菌が存在し, OP は, マラセチア属菌に対しても有用であることが示唆された。今回採取した 10 頭のイヌの口腔内からはカンジダ属菌は検出されなかった。